

▶ 第8章

台湾にみる米中ハイテク分断の最前線

日本経済研究センター研究員

(兼日本経済新聞社編集局企業報道部アジアテック担当部長)

山田 周平

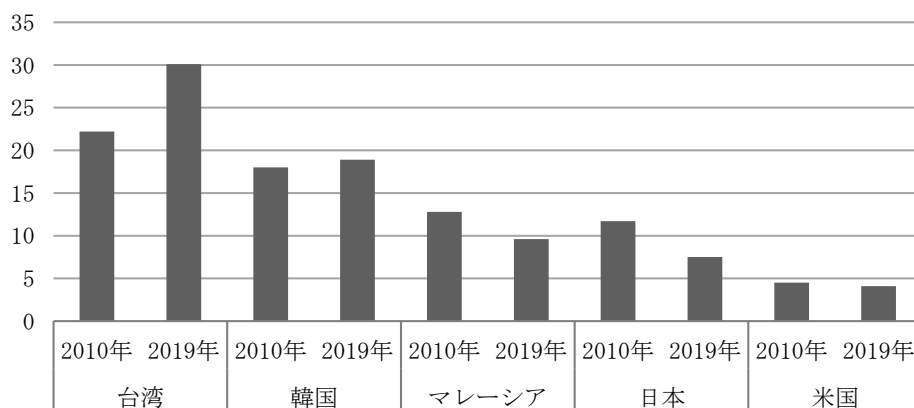
【ポイント】

- ▶ 台湾の産業界がハイテク分野で米国と中国のデカップリング（分断）の最前線に立っている。中国のハイテク産業の発展は歴史的に、台湾企業が工場進出や部品供給で支えてきた側面があるからだ。現在は台湾当局・企業とも、米国の意向に沿う形で開発や生産の「脱・中国」を進めている。
- ▶ 米中分断で米国側を優先する台湾企業の経営判断は短期的には業績にプラスに働いており、米国はバイデン政権下でもビジネスを含む台湾重視の姿勢を維持する見通しだ。台湾の世論も中国と距離を置き、米国側に立つ動きをおおむね肯定的に受け止めている。
- ▶ 台湾企業が担い手を務めるIT（情報技術）機器のサプライチェーン（供給網）は米中分断で変化しており、日本企業も対応を迫られている。日台のハイテク産業は相互補完の余地が大きく、日本企業は米中分断よりリスクを低減するためにも台湾企業の理解・活用をさらに進めるべきである。



注目データ

中国の半導体・電子部品輸入に占めるシェア
(国・地域別、単位：%)



資料：台湾・財政部の調査をもとに筆者作成